

令和7年度第3回蒲郡市総合計画外部評価委員会 会議録

開催日時	令和7年9月8日（月）午後2時から午後4時まで
開催場所	第3委員会室
出席者	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学 教授 高野 雅夫 ・愛知工科大学 准教授 小林 直美 ・総代連合会 副会長 山口 俊明 ・がまごおり市民まちづくりセンター 代表 金子 哲三 ・ボランティア連絡協議会 会長 山本 なおみ ・市民公募委員 濱野 寛子 ・市民公募委員 吉原 幸子 ・市民公募委員 児玉 真伍 <p>【説明者】</p> <p>分野別計画「観光」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興部観光まちづくり課長 山田 浩隆 ・産業振興部観光まちづくり課 課長補佐兼係長 鈴木 隆夫 <p>分野別計画「商業・サービス業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興部産業政策課長 竹村 太郎 ・産業振興部産業政策課課長補佐兼係長 永谷 礼子 ・産業振興部産業政策課課長補佐兼係長 黒田 俊介 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部次長兼企画政策課長 小田 芳弘 ・企画部企画政策課主幹兼係長 伊藤 次郎 ・企画部企画政策課主事 尾崎 晴樹
議 題	<p>(1) 分野別計画「観光」の評価</p> <p>(2) 分野別計画「商業・サービス業」の評価</p>
会議資料	別紙のとおり
会議内容	<p>(1) 分野別計画「観光」の評価</p> <p>【E委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンシェルジュの活動場所はどうなっているのか。 ➡コンシェルジュの活躍の場は課題の一つとして考えています。今まで1,500名を超える方に認定を受けていただいています。過去にはあじさい祭りでの植樹活動や、最近ではキッズコンシェルジュという新しい分野を創設してFM豊橋に出演してPRしていただいたり、大人の方では蒲郡まつりのお手伝いなどをしていただいています。今後はアクティブな方の掘り起こしを行い、情報発信への協力を促していくことなどに取り組んでいきたいと考えています。 <p>【A委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりどのぐらいの方が活動するのか。 ➡10名未満となることが多いので、多くの方に活動してもらえるような

仕組みや場の提供が課題となっています。

【C委員】

・名鉄蒲郡線について、例えば老人クラブでは西尾市と相互に交流事業を行っている。なかなか沿線地域の方ではないと、沿線のいいところなどをなかなか紹介できないと思うので、こういった活動も含めて名鉄沿線以外の方にもPRをしていただきたい。

【H委員】

・目標指標の「市内に訪れた観光客数」、「体験プログラム参加者総数」がそれぞれR3に落ち込んでいるのは新型コロナウイルスの影響か。R6になると数字が伸びており、特にプログラム参加者数はテックスビジョンの5,000人も含めて伸びているが、観光客数はそこまでは伸びていないように感じるがどう認識しているか。

➡新型コロナウイルスの影響についてはそのとおりです。また体験プログラムでの参加者数はあくまで単体イベントの参加者数であり、そのまま観光客数には反映されていない状況です。テックスビジョンについては、東京ガールズコレクションとのコラボ企画の関係で大きく伸びたと認識しています。

・つまり体験する方は市外比べて市内の方が多いのか。

➡市内の方も一定数おり、特に近隣の三河の方が多い状況です。

・おもてなしコンシェルジュ、観光ボランティアガイドの予算が0なのは、市の予算ではなくて観光協会による実施となっているからか。

➡そのとおりです。

【F委員】

・MIKAWA de 遊び100はオンパクのころから三河地域へと広げており、また体験の検索も気軽にでき評価できる。ただし実施期間が10月から3月となっているが、夏など他の季節でもアピールできる体験があると思うので、開催期間を変えて行う年があってもいいと思う。

【D委員】

・観光を評価する際に誘客というのは必要だが、それ以外の評価も始まっている。観る観光から体験する観光、次はどうかと考えた場合、例えば役に立つ観光など、そういったことを遊び100などを活用して展開していくと面白いと思う。

・企業も地域貢献について力を入れてきているので、そういったものもコンテンツの中に取り入れて企業が貢献しやすい形を考えるのも良いと思う。

【B委員】

・英語ボランティアガイドの活躍場所や機会をどのように考えているか。

➡2026年のアジア・アジアパラ大会で外国人の方が多く訪れていただくことを想定して、昨年度から英語版の研修生募集を始めています。場所としては市内の観光地である竹島でのガイドを想定しています。

・蒲郡市のインバウンド誘客について、大変もったいないと思っている

部分があり、蒲郡市は海とヨットのまちであり、これはヨーロッパ系の富裕層がターゲットとなりうる魅力だと思う。英語ガイドの育成を行うのであれば、SNS等でヨーロッパをターゲットにしたマーケティングをしてみてもどうか。これに関して戦略等あれば聞かせてほしい。

➡ヨーロッパに対するPRは現在あまりできていないという状況です。セントレアに着くは、がコロナ前からアジア系のLCCが増えており、そちらをターゲットにしてきた経緯があります。ヨーロッパに関する視点は今まであまりなかったので参考にさせていただきたいと思います。

・海、ヨット、SUP、ヨガ、スパと蒲郡市にはアピールできる観光資源がたくさんあるので、ぜひヨーロッパに向けた呼び込み等も検討してほしい。

【H委員】

・活動されているボランティアガイドの年齢層が高いという印象があるが、若手、後進の育成は進んでいるのか。

➡どうしても時間的に余裕のある高齢の方が多く活動していただいている状況で、過去には小学校へ出前講座をして、竹島やボランティアガイドの魅力伝える取組を行っていますが、なかなか進んでいない状況です。

【E委員】

・高齢の方や障がいのある方に蒲郡市に観光に来ていただけるにはどうしたらよいかと考えたときに、例えば車いすを用意したり、観光ボランティアガイドの方に手伝ってもらったり、だれでも楽しめる観光地にしていけるといいのかなと思う。ホテル竹島さんは障がいのある方でも泊まれるように進めている。これがどんどん波及していくと障がいのある方も安心して観光ができるのかなと思う。

【D委員】

・ボランティアガイドの中に聴覚障がいをお持ちの方がおり、これは愛知県では蒲郡市だけとのこと。観光にもユニバーサル対応の視点を取り入れた、ユニバーサルツーリズムを進めることが、ひとつのまちのステータスになると思う。

【A委員】

・世界的にはサステイナブルツーリズムが進んでおり、観光地もいかにサステイナブルなまちであるかをアピールしないと観光客が集まらない時代になってきている。蒲郡市の観光まちづくりビジョンを見てもそういった言葉は見当たらず、世界的に立ち遅れてきていると思う。サステイナブルの中にもいろいろな項目があり、その中にユニバーサルという視点も入ってくる。是非サステイナブルツーリズムということも意識していただければと思う。サステイナブルをアピールすることはヨーロッパから誘客しようとした場合も必須となる。

➡蒲郡市でもJSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）について研究を始めており、ご指摘いただいたいただいた内容も含めて考えていきたいです。

・観光入り込み客数に比べて宿泊者数がコロナ後なかなか回復していな

いように見える。蒲郡市の観光で最大の課題は廃墟となった宿泊施設をどうするのかというところで、あれがある限りなかなかアピールができないと思う。

・蒲郡市は戦前高級な保養地だったが、高度成長期に大衆化の流れから大きな旅館が団体旅行客を誘客するマスツーリズムの時代になり、ただそれが行き詰ってきている。市全体としてどういう観光地を目指していくのか、ターゲットをどうするのかというのが見えない。

・ガイドについてはボランティアが行う魅力もあるが、プロのガイドが紹介してくれるようなプログラムも将来出てくると観光地の魅力として良いと思う。

【G委員】

・ヨガのプログラムを開催しているが、参加者は市内の方が多い。市外の方を呼び込むことができれば体験プログラムがより観光に結びついていくと思う。

【A委員】

・体験プログラムの中には、市内で営業されている事業者によるプログラムも多いので、どのぐらい営業にインパクトがあるのか知りたい。また市内参加者と市外参加者の割合は観光という観点で評価するには必要だと思う。オンパクから続くこの取組は素晴らしいと思うので、ぜひアピールして欲しい。

(2) 分野別計画「商業・サービス業」の評価

【E委員】

・小学校で行う三河木綿教室は子どもたちが将来蒲郡に残るきっかけのひとつになるような取組だと思う。2校での実施とのことだが、もっと増やせないのか。

▶三河木綿教室にボランティアとして協力していただいている方の高齢化が進んでおり、これ以上増やすのは難しい状況で、後継者の育成が課題となっています。

【D委員】

・中学生や高校生などの若者が地元企業についてあまり知らない。何か取組はされているのか。

▶蒲郡高校と連携して蒲郡市全体の産業について調べてもらうという取組は行っています。企業訪問をしていく中で、市内企業の方から地元の高校生を採用したいが、なかなか採用できないという話もお聞きしています。今、ハローワークと連携して企業展のようなものがないか検討している状況です。また市内の優良企業を載せた企業パンフレットを作成し、市内の高校や県内の大学などに配りPRを行っています。

【H委員】

・商店街振興組合の会員数が減少しているが、後継者がなかなかいないという方も多いと思う。また創業者も増やしていけないと思うが取組等の状況を教えてほしい。

▶今年度事業承継ネットワーク「かけはし」を創設し、商店街に限らず事業者の方の事業承継支援として金融機関や信用保証協会などとの協

力体制を整えています。昨年度実施した事業者向けのアンケートでは、後継者が決まっている事業者で親族が 27.7%、社員等が 2.9%、第三者が 1.3%、事業承継したいが後継者がいない方が 12.3%、未定・わからないという回答が 55.9%で、32%ぐらいの方が後継者がいると答えている中で、未定・わからないという方が半分以上いて先送りにしている現状が見受けられます。そういった方に対してこちらから掘り起こしができるような取組を事業承継ネットワークの中で検討していければと思います。

・次世代の育成という点で小学生向けの三河木綿教室を取り上げているが、繊維業界に子どもたちに関心を持たせたいのであれば、大きな企業と絡めて実施すると効果的かと思う。どのような狙いがあるのか。

➡三河木綿についてはまだまだ浸透していないと思っており、また就職を考えると蒲郡市には繊維産業があり、日本一の繊維のまちであったということを知っていただき、綿に触れてもらうことで蒲郡市の地場産業として誇りに思ってもらえるようにと考えています。現在、東京ガールズコレクションと連携して地場産業活性化プロジェクトを行っており、若い世代の方に、蒲郡市の繊維産業の魅力を伝えていきたいと考えています。

【A委員】

・伝統的なものではなくて一般的な製品で三河木綿の製品はあるのか。

➡赤ちゃん用のガーゼ製品等が人気です。

【G委員】

・ふるさと納税の返礼品ではないのか。

➡三河木綿製品は取り扱っており、事業者側から提案があり取扱いが増えている状況です。

【C委員】

・もともとミカン農家で、今年、農地を継いでくれる後継者が見つかった。若い方が5人で会社を立ち上げてミカンの栽培をするということに感銘を受けて農地を譲渡した。後継者を探すのはなかなか難しく、それは商業・サービス業でも同様だと思う。

・新城の軽トラ市とごりやく市で連携、交流しても面白いと思う。新城の軽トラ市では農産物の販売を行っており、蒲郡市の魚介類を新城市に持っていた交流したこともある。

➡ごりやく市で、新城の軽トラ市を参考に模索したこともあり、また多様な方との連携により新しい取組を始めている状況で、今後も協力して続けていきたいと考えています。

【G委員】

・ごりやく市のSNSの更新頻度が低い。もっとSNSを効果的に活用していく必要がある。

【B委員】

・卸小売業年間商品販売額が前年度比マイナス 10%になるかもしれないという予測に大変ショックを受けている。人口減少が進む中で指標を維持するという考え方もポジティブな考え方となるのではないかと思う。

・ごりやく市では、かつてあった銀座祭りの楽しい思い出を子どもたち

にも経験させたいということで新たに運営委員会に加盟し活動されている方たちがいて、また子どもたちを巻き込んで子ども商店などの新たな企画を考えている。失敗してもいいので、いろんな方を巻き込んでどんどんチャレンジしてほしい。

・この10年で商店街をどうしていきたいというビジョンが見えない。
➡ごりやく市が行われる中央通り商店街も商店の間に住宅が建ってきており商店街のカタチが変わってきています。蒲郡駅周辺のこの辺りはアクセスが良く、少し西側では図書館とホール機能が複合した公共施設建設のプロジェクトも進んでいます。そういった中核となる施設や港とも連携しながら駅周辺の賑わいを創出していきたいと思います。蒲郡高校から駅までの通学路に商店街がありますので、高校生が気軽に立ち寄っていただけるような商店街にできたらと思います。場当たりの施策となっていると感じてますが、中長期的な視点も商店街の人と相談しながら検討していきたいと思います。

【A委員】

・商店街については新しいお店を増やしていくしかなくて、そのノウハウは全国的に蓄積されている。マッチングだけではだめで、創業支援補助金などを含めてみんな伴走、支援をしていく必要がある。3店舗新しいお店ができるとまちの雰囲気が変わる。若い方がおしゃれなカフェなどを始めて、それがぽつぽつとできてくると雰囲気が変わってくると思うのでぜひ頑張っていたきたい。

・担い手不足については企業側がどういう人が欲しいのか理解し、それにあった高校生とのマッチングが必要だと思う。

・地場産業の衰退は、どこでも起きていて、そのひとつに生産者と最終的な消費者との繋がりがなく、自分の商品どのように消費者に受け入れられているのか知らず、消費者からのフィードバックが届きにくい状況があるので、そこをコーディネートできる仕組みを構築できればと思う。

【F委員】

・ビジネスホテルで息子に代替わりして事業承継する際に、コンサルタントを入れたことで新たな販路の開拓につながったことがある。事業承継の際の不安や課題、また経営相談に関して民間のコンサルタントの紹介等があると心強いと思う。

【A委員】

・商工会議所もそうだが、地元で詳しいコンサルタントを育てていくことも重要かと思う。